令和４年９月１４日発行　NO.8

伊勢崎市立境北中学校
学校通信
# 煌星（きらぼし）

学校教育目標：貢献　自立　共生

４月１９日（火）3年生対象に全国一斉に「全国学力・学習状況調査」が実施されました。全国的な生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証しその改善を図るために毎年行われているものです。内容は、「知識」と「活用」を一体化した問題からなり、国語・数学の２教科で実施されました。また、「生徒質問紙」により、学習意欲・環境・方法・生活など各生徒の生活習慣や学習内容を把握するための調査もありました。本校の結果が届きましたのでお知らせします。

## 国語・数学・理科の結果報告

【国語科】

○平均正答率の全国との差について、高かったのは【知識及び技能】では『言葉の特徴や使い方に関する事項』であり、【思考力、判断力、表現力等】では『Ａ話すこと・聞くこと』『Ｃ読むこと』であった。平均正答率が全国に比べて特に高かった問題は、『スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す』、『スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く』、『「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する』であった。聴き手の興味・関心などを考慮して表現を工夫する学習や自分の考えが分かりやすく伝わるよう表現を工夫して話す学習、表現技法やその効果等の学習をさらに充実させていく。

▲平均正答率の全国との差について、低かったのは【知識及び技能】では『情報の扱い方に関する事項』、『我が国の言語文化に関する事項』であり、【思考力、判断力、表現力等】では『Ｂ書くこと』であった。平均正答率が特に低かった問題は、『書き直した文字の「と」の書き方について説明したものと適切なものを選択する』、『行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものと適切なものを選択する』であった。行書の特徴を理解する学習や、漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する学習に力を入れていく。

【数学科】

○平均正答率の全国との差について、高かった領域は、図形。平均正答率が全国に比べて特に高かった問題は、目的の応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、ことがらが成り立つ理由を説明する問題、反例の意味を理解しているか問う問題、多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の意味を理解しているか問う問題であった。事象を数理的に捉え、解決までの思考過程を、根拠を明確にして説明・比較・検討させる学習をさらに充実させていく。

▲平均正答率の全国との差について、低かった領域は、関数、データの活用、数と式。観点別では思考・判断・表現、知識・技能。低かった問題は、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題、簡単な連立二元一次方程式を解く問題、箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題であった。反復学習による基礎基本の定着を目指すとともに、ペア学習やグループ学習での学び合いを継続して行っていく。

【理科】

○平均正答率の全国との差について、高かった領域は、生命、エネルギー。平均正答率が全国に比べて特に高かった問題は、東西方向と南北方向の地層の断層である露頭のスケッチから地層が傾いている向きを選択する問題、ダイオウグゾムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて生活場所や移動の仕方と関連付けその理由を説明する問題、予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合その意味することや考えられる可能性について考え実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する問題であった。実験結果を比較検討し、それぞれの意見を発表しあう中で物事を　多面的にとらえ、考察する力を高められる学習をさらに充実させていく。

▲平均正答率の全国との差について、低かった領域は、粒子、地球。観点別では知識・技能、思考・判断・表現。正答率が特に低かった問題は、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する問題、観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際適切な長さの変化を選択する問題、吸湿発熱繊維に水蒸気を多く含む空気を通した１つの実験だけで行った考察について課題に正対しているかどうかを検討し必要な実験を指摘する問題であった。反復学習による基礎基本の定着を目指すとともに、導入を工夫することにより意欲的に取り組む学習を継続して行っていく。

## 生活状況の結果報告

《自分自身について》
○「自分にはよいところがあると思う」「先生がよいところを認めてくれていると思う」「将来の夢や目標を持っている」「友達と協力するのは楽しいと思う」と答えた生徒の割合は全国平均を上回っている。「人が困っているときは、進んで助けている」と答えた生徒の割合は全国平均を大きく上回っている。
▲「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる」と答えた生徒の割合は全国平均を下回っている。

《家庭生活》
○「起床時間や就寝時間が一定している」「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束をしたことを守っている」「平日１日あたりのテレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、スマホのゲームを含む)の時間が２時間を過ぎない」「平日１日当たりのＳＮＳや動画視聴時間が３時間を過ぎない」「地域の行事に参加している」「地域の行事に参加している」と答えた生徒の割合は全国平均を上回っている。

《家庭での学習について》
□読書については「平日２時間以上読書をしている」と答えた生徒の割合は全国平均を下回っているが、「平日１時間以上読書をしている」と答えた生徒の割合は全国平均を大きく上回っている。
▲「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と答えた生徒の割合は全国平均を大きく下回っている。「平日３時間以上勉強をしている」「新聞をほぼ毎日読んでいる」と答えた生徒の割合は全国平均を下回っている。

《学校での学習について》
○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と答えた生徒の割合は全国平均を上回っている。「発表の場面で、自分の考えが伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫した」、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」、「自分の思いや考えをもとに作品や作文など新しいものを作り出す活動を行った」、「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間になっていた」、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」、「学級生活をよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」、「学級での話し合いを生かして、今、自分が努力することを決めて取り組んでいる」、「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」、ＩＣＴ機器の活用について「ほぼ毎日使用している」と答えた生徒の割合は全国平均を大きく上回っている。

## 今後に向けて（まとめと課題）

①各家庭での約束を守り、規則正しく生活することのできている生徒が多い。
②自分の良さを自覚し、思いやりの気持ちをもち日々の生活を送ることのできている生徒が多い。
③悩み事などの相談ができないと感じている生徒が多い。
→生徒の変化を見逃さず、成長や個性を認めたり、励ましや賞賛の声かけを積極的に行ったりすることで、相談しやすい関係づくりに努めるとともに、「 SOS の出し方に関する教育」を推進していきます。
④友達と協力しながら前向きな気持ちで与えられた課題に取り組むことのできる生徒が多いが、難しい事柄に、失敗を恐れず挑戦できる生徒は少ない。
→チャレンジコンテストや各種検定など、明確な目標と達成感を得られる場を設定し、自己肯定感や自己有用感を高めることで、様々なことに挑戦していこうという気持ちを育んでいきます。
⑤授業に主体的に取り組むことのできる生徒が多い一方で、家庭学習の取り組み方に関しては課題も見られる。
→学習計画表やＳＳＰカードを通して、家庭学習をサポートしていきます。

※生徒が使用しているタブレット端末に、「毎日の学習に役立つ！！全国学力・学習状況調査」の解説動画が視聴できるようにしてありますので、ご活用下さい。